

関東学院大学 vs 拓殖大学

10月20日(日)
11:30K.O.
朝鮮大 G

昇格圏を迫る関学大と、降格圏から脱出したい拓大。順位的に好対照な2チームの対戦はいかに。

関学大は前節、東海大と対戦して2-1で勝利した。前線から厳しいプレッシャーをかける関学大に対して東海大はロングボールを中心とした攻撃で応戦するという展開になったゲームは、26分に関学大が先制するものの前半ロスタイムにセットプレー崩れから同点に。後半は主導権を握り、80分にDF土館賢人(3年)の素早いリスタートからFW富樫敬真(2年)が決勝点を決めた。これでまた3位に浮上し、昇格圏を追い上げるポジションについたが、石村大監督は「結果としては勝ててよかったが、トータルとしては課題が残る。最終ラインからの組み立てをもっと安定させたい」と試合を振り返った。東海大のパワープレーに耐えた守備陣の粘りと、2試合連続で終盤に決勝点を奪っているのは良い流れ。昇格圏に少しずつでも近づくことができるか。

対する拓大は、6試合勝利がなく11位という位置で苦しんでいる。しかし、そのうち3試合は引き分け。前節は神大と2-2で、久々に複数得点を奪ったという意味では、調子は上向きと見てもいいだろう。神大戦は、前半は積極的に仕掛けてくる相手の勢いに受け身とな

り、23分までに2失点。後半は、逆に立ち上がりから攻め込み59分までに同点としたが、勝ち越すには至らなかった。玉井朗監督は前半の2失点を反省しつつ、「下を向かずに取り返したことは、今後につながる試合になった」と話した。6試合勝利のない最初の敗戦を喫した関学大に辱して巻き返しのきっかけをつかみたい。

<出場停止>なし / 3回警告: 土館賢人・萱沼優聖(関学大)

<前回の対戦>関学大2-1拓大

関学大		拓大	
6. 木村	24. 普光院	36. 郡司	2. 三浦
4. 久保	11. 萱沼	4. 金子	24. 末松
1. 守山	7. 太田	1. 大坪	
	3. 土館		
27. 原島	9. 富樫	7. 川崎	31. 高橋
	13. 吉田	11. 内野	18. 大森
5. 山口		26. 小針	

東京国際大学 vs 朝鮮大学校

10月20日(日)
13:50K.O.
朝鮮大 G

首位の東国大と9位の朝鮮大。苦しんだ後半戦序盤に比べ復調傾向にある東国大に対し、なかなか試合内容が安定しない朝鮮大。どうやって勝機を見出すか!?

東国大は前節、「天敵、である同じ埼玉勢の平国大を2-0で退けた。前田秀樹監督も「終わってホッとしている。先制点が大きかった」と安堵の表情。今季の開幕前からの連勝を止められた相手だったが、今回はシュート数も12-3と圧倒した完勝であった。FW加藤龍治(3年)が1得点1アシストと活躍。ショートパスをつないでくる相手に対し、しっかりとプレッシャーをかけてボールを奪い、シュートまでつなげた。無失点の勝利ということも復調を印象づけるが、前田監督が「前回は勝ったが、押されていた部分もあった」と話す朝鮮大に対し、どう戦うか。残る上位陣との対戦を前に、連勝で弾みをつけたいところだ。

一方の朝鮮大は前節、駒大と対戦して0-2で敗れた。前線に当ててくる駒大の攻撃に対し、セカンドボールを拾って応戦、攻守の切り替えの激しいゲームとなったが、37分、精度の高いクロスボールを入れられ先制点を許した。後半立ち上がりの48分にも、今度はゴール前でのルーズボールを拾われ追加点。攻撃ではシュ

ート5本に抑えられ無得点に終わった。「前半はセカンドボールを取れていたが、取ったボールを攻撃につなげられなかった」(金載東監督)。局面の変化が激しいなか、いかに決定的なシーンをつくれるかが課題で、この日は決定力の差がそのまま勝敗の分かれ目となってしまった。カウンターを得意とする東国大に対しては、特に攻めた後のリスクマネジメントに気を配りたい。

<出場停止>なし / 3回警告: なし

<前回の対戦>東国大2-1朝鮮大

東国大		朝鮮大	
22. 新地	17. 小玉	22. 慎鏞紀	
5. 川島	9. 福島	7. 尹昌洙	
10. 若井		14. 朴利基	3. 李教俊
		6. 任良太	
21. 今野	13. 佐伯	1. 李在根	
	3. 阿部		
	4. 加藤	21. 康貴成	
	11. 高橋	20. 金慎也	4. 許亮
2. 伊東		17. 高志煌	
		24. 鄭壯輝	

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2013-NO.17
編集: 五味亜矢子 発行: 関東大学サッカー連盟 協力: 関東大学サッカーサポーターズクラブ



東国大、駒大がリード広げる!

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 2 部リーグは、首位の東国大と 2 位の駒大が 3 位以下を引き離しにかかっている。第 16 節では、東国大は平国大に、駒大は朝鮮大にそれぞれ 2-0 で快勝。しかし、それを追う 3 位・青学大が東学大に 0-1、4 位・東農大が法大に 0-3 で敗れた。東海大を 2-1 で下した関学大が三たび 3 位に浮上したが、2 位との差は勝点 7。上位 2 校がなかなか負けないうため、3 位以下のチームの付け入る隙がない状況が続いている。また、神大は拓大と 2-2 で引き分けて順位を一つ落とした。

今季の昇格争いはこのまま終息し、注目は優勝争いだけになってしまふのか、それともまだまだ波乱が起こるのか。そういった意味では 3~5 位あたりのチームの戦いぶりが気になるが、今節は 3 位から順

得点ランキング		アシストランキング	
10: 小牟田洋佑 (駒大)	伊東 純也 (神大)	7: 佐伯 拓磨 (東国大)	碓井 鉄平 (駒大)
9: 富樫 敬真 (関学大)	8: 山本 大貴 (駒大)	5: 田中 雄一 (駒大)	今野 順 (東農大)
関谷 祐 (青学大)	7: 後藤 拓斗 (青学大)	長野 祐太 (神大)	4: 全 4 名
内野 裕太 (拓大)			

位を一つ落とした青学大が、好調の法大と対戦するゲームが注目だ。また、すべて上位陣 vs 下位陣の対戦だが、残留争いに火がつきつつある下位陣の底力にも期待したい。

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第 16 節終了時)

順位	2部	東国大	駒大	関学大	青学大	東農大	東学大	法大	神大	朝鮮大	平国大	拓大	東海大	勝数	負数	分点	得点	失点	得失差	勝点
1	東国大		100	401	302	102	201	400	100	201	101	301	300 (没収)	11	2	34	17	17	36	
2	駒大	001		200	401	302	402	200	401	102	304	200	401	11	3	39	20	19	35	
3	関学大	104	002		000	003	400	201	002	400	300	201	300 (没収)	9	6	29	21	8	28	
4	青学大	203	104	000		101	100	401	201	102	000	100	201	8	5	34	17	7	27	
5	東農大	201	203	300	101		102	100	103	101	103	200	300 (没収)	8	6	25	21	4	26	
6	東学大	102	204	004	001	201		001	302	200	301	201	201	7	5	42	21	0	25	
7	法大	004	002	102	104	001	100		201	001	101	102	402	6	7	38	27	1	21	
8	神大	001	104	200	102	301	203	102		201	301	205	102	6	8	30	31	-1	20	
9	朝鮮大	102	201	004	201	101	002	100	102		001	001	401	5	9	16	25	-9	17	
10	平国大	101	403	003	000	301	103	101	103	100		302	203	4	8	19	33	-14	16	
11	拓大	002	101	104	004	青学大	法大	川口	法大	002		11/2		4	9	3	21	26	-5	15
12	東海大	003 (没収)	104	003 (没収)	102	003 (没収)	102	204	201	104	302	103		2	13	14	41	-27	7	

※ 東海大は後半戦終了時点で勝点-6となります

リクナビ就職エージェント
どうせなら、勝って泣きたい。
部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/



東京農業大学 vs 東海大学

10月19日(土)
11:30K.O.
法大G

2連敗中の東農大と、4連敗中の東海大との対戦。連敗脱出を目指す両チームの今季初の対戦は、上位への挑戦権を狙う東農大、降格を回避したい東海大のどちらにとってもお尻に火がついた状況だけに、激しい攻防が予想される。冷静に戦えるのはどちらか。

東農大は前節、法大に0-3と完敗を喫してしまった。試合開始4分で、自陣でのミスから先制点を許してリズムを相手に渡してしまったが、シュート数は13-15と引けを取らない試合展開を見せた。それでも、ゴール前での1対1の局面では、法大攻撃陣を抑えることができず失点を重ねた。特に、後半は相手の倍のシュートを放ち反撃ののろしを上げかけたが、「自分たちのペースになっていたところで3点目を決められたのが痛かった」(秋吉保浩監督)。2試合連続無得点というのが懸案材料。持ち味だった粘り強さを発揮したい。もう一度、上位を追い上げる態勢を築けるか。

一方の東海大は前節、関学大に1-2で敗れた。関学大の厳しいプレスの前に、ロングボールが多くなる試合展開だったが、後半戦の戦いで見ればシュートで終わる局面が増えてきた。それでも、先制された前半はロスタイムにセットプレーで追いついたが、一進一退の攻防と

なった後半は80分に素早いリスタートから決勝点を決められた。「相手との関係を考えてプレーすることはよくなったが、駆け引きの部分でまだ勝てないし頭のスピードが相手より負けている」(後藤太郎監督)。残留を目指して追い上げるには黄色信号が灯りつつあるだけに、なんとしても後半戦初勝利を目指したい。

<出場停止>なし / 3回警告: 村山翔・櫻岡徹也・加藤聖哉(東農大)

<前回の対戦>東農大3-0東海大(没収試合)

東農大	東海大
27. 加藤	35. 岩壁
14. 石川	27. 北原
5. 櫻岡	5. 元田
6. 中垣内	24. 羽毛
11. 井上	23. 木村
8. 佐々木	3. 小山
10. 浜田	29. 内山
3. 田村	9. 桑原
18. 今野	2. 太田代
12. 徳田	7. 水橋
	26. 小野

東京学芸大学 vs 平成国際大学

10月20日(日)
11:30K.O.
法大G

5試合ぶりの勝利をつかんだ東学大と、5試合勝利のない平国大との対戦。前回の対戦は東学大の快勝だったが、2度目の対戦はいかに。

4試合連続引き分けという「勝ち切れない、苦しい状況から、ようやく勝ち切って抜け出した東学大。前節は3位の青学大と対戦し、1-0と虎の子の1点を守り切った。試合はお互いがパスをつないで持ち味を出す好ゲームとなったが、「試合の入りは、前の試合を継続したい流れで入れた」(西園聡史監督)という東学大が30分、ここ数試合で取り組んできたサイドバックの攻撃参加が実を結び、DF富澤右京(1年)のクロスからFW岡卓磨(4年)が待望の今季初得点を決めた。しかし、その後は1点を守りたい気持ちからか受け身にまわってしまい青学大にボール支配を許したが、無失点で切り抜けた。運動量が落ちたときの守備に課題を残しつつ、可能性のある限り昇格圏の追い上げを目指す。

一方の平国大は前節、東国大に0-2で敗れてしまった。後半戦の序盤は攻撃陣が好調だったが、勝利のない5試合での得点はわずか2と、得点力不足に苦しんでいる。東国大に対しては、攻め込むものの相手に奪われてカウンターを受けるという繰り返しで、39分に失点。

多くのシュートを浴びながら1点ビハインドのまま善戦したが、81分に追加点を奪われ万事休す。西川誠太監督は、「自分たちのスタイルで良さは出している。もう一步のところまで来ていると思う」と話し、復調の兆しが見えたことを示唆した。それだけに、今節の試合は重要。「何回失敗をしても、トライすることがウチの良さ」(西川監督)。トライを結果に結びつけたい。

<出場停止>五十嵐亙(東学大) / 3回警告: なし

<前回の対戦>東学大3-1平国大

東学大	平国大
25. 富澤	13. 竹内
8. 佐々木	34. 佐藤
2. 大里	35. 鈴木
9. 岡	6. 本田
15. 菅	33. 竹中
12. 須賀	30. 馬屋原
10. 茶島	9. 星子
3. 成田	17. 坂本
13. 中村	2. 須藤
5. 廣木	8. 横瀬
	16. 増田

青山学院大学 vs 法政大学

10月19日(土)
13:50K.O.
法大G

4位に後退した青学大と、7位に浮上した法大との対戦。両チームとも中盤の構成力、攻撃力を持つだけに、どちらがより多く得点を奪うか注目である。

3連勝で3位に浮上し、上位2チームの追い上げを図りたかった青学大だが、前節は東学大に0-1で敗れ、順位を一つ落としてしまった。試合全般を見れば、シュート数も9-4と上回り、ボール支配率も高かったが、30分にロングクロスから奪われた1点に泣いた。得点が入ってから、やや守りに入った東学大を崩し切れなかったのが敗因。後半戦で初めて無得点に終わり、宮崎純一監督も「奪われた1点を防げなかったことよりも、それを上回るような試合ができなかったのが反省点」と、攻撃面を反省点に挙げた。3連勝中は3試合で8得点を奪っていたが、やはり先に点を取られると苦しくなる。先行する展開に持ち込めるかどうか。

対する法大は前節、東農大に3-0と快勝。これで、引き分けもはさんで5試合負けがない。順位もようやく7位まで浮上しただけに、出来る限り上位進出を図りたいところ。東農大戦は、試合開始4分にMF高橋健哉(3年)が相手のミスを逃さずゴールにつなげて主導権を握り、前半だけで10本のシュートを放ち33分にも追加点。

後半は押される時間帯もあったが、その隙を突いてダメ押しとなる3点目を奪った。それでも大石和孝監督は、「前からプレッシャーをかけられるとバタバタしてしまう。もっとしっかり構えなければ」と反省点を挙げた。今季開幕戦で出鼻をくじかれた青学大に雪辱できるか。

<出場停止>西室隆規(法大) / 3回警告: 京谷季樹・水島雅之・服部真矢(青学大)、田代雅也・森保翔平・星雄次(法大)

<前回の対戦>青学大4-1法大

青学大	法大
20. 服部	17. 森保
16. 恵	24. 白石
5. 京谷	14. 松本
10. 木澤	2. 宗近
8. 後藤	5. 岩淵
12. 高橋	1. 四宮
6. 高山	6. 星
18. 関谷	15. 高橋
15. 水島	27. 田代
7. 荒木	16. 松田
3. 早田	30. 永戸

駒澤大学 vs 神奈川大学

10月20日(日)
13:50K.O.
法大G

2連勝中の駒大と、2試合連続引き分け中の神大との対戦。駒大は引き分けをはさんで6試合負けがない。神大は、昇格圏にいる駒大の連勝を止められるか。

その駒大は前節、朝鮮大に2-0で快勝した。3試合ぶりのクリーンシートにも秋田浩一監督は、「(よかったのは)失点0で、勝てたことだけ。決定的なチャンスを決められなかったことは、後で得失点差が絡むようなことがあると響くと思う。内容的にがっかりしている」と渋い表情。攻めながら決め切れなかったシーンを課題とした。しかし、内容的には今季初先発のDF須貝暁(3年)のクロスから先制、前節から2人が変わったDFラインも朝鮮大のロングボールを粘り強く跳ね返して無失点と、新たな収穫も多かったはず。今後の昇格争いを見据える駒大は、まだ気を緩める訳にはいかない。

対する神大は、2試合連続で2-2の引き分け。得点は奪えているが、失点が多いことで勝点を逃している。前節は拓大と対戦し、前半で2点をリードしながら、後半に2点を奪われた。その前の試合は追い付いての2-2だったが、前節は後半開始から59分までに2失点を喫し、立ち上がりの時間帯の戦い方に課題を残した。高峯弘樹監督も、「後半開始直後に失点したので、ゲーム

の入り方、運び方をもう一度確認しなければいけない」と話した。ここ数試合、本来はMFであるMF長野祐太(4年)とMF須郷智広(4年)をサイドバックで起用し、より攻撃的に仕掛けているのも事実だが、出来る限り不要な失点は減らしていきたいところだ。

<出場停止>なし / 3回警告: 碓井鉄平・キム デセン・伊藤慎人・田中雄一(駒大)、杉山祐亮・秋山真太郎・武田将平(神大)

<前回の対戦>駒大4-1神大

駒大	神大
3. 田中	7. 長野
11. 小牧	15. 湯澤
15. 川岸	14. 芦野
7. 碓井	5. 杉山
9. 小牟田	28. 武田
1. 大石	1. 阿部
20. 立石	
6. 若山	16. 前田
4. 平尾	10. 伊東
17. 平野	4. 向山
19. 須貝	22. 伏木
	8. 須郷